

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	足立区足立2-26-14
園名	足立区立五反野保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感と音

<テーマの設定理由>

乳児期からのキャストプログラムの取り組みを通して、音に親しんでいる。月の歌では高低や大小で曲調を変えて歌ったり、キッズステージ(生活発表)で劇遊びを経験したりしているため、より音を楽しめるようにしていきたいため。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に一回音楽の講師を招致し、擬音や音、楽器に触れる機会を増やした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育者と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

6月 五感とは何か？音って目に見えたらどんな形か、考える

7月～10月 音と気持ちの関連を考えながら探究する

11月～12月 音や気持ちに合わせて楽器を鳴らしたり、絵に描き表しながら探究する

1～2月 楽器で演奏しながら探究する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・マラカス
- ・フルーツバスケットシェーカー
- ・ハンドベル
- ・スチールタンドラム
- ・ミュージックベルカラーハンド式
- ・ミュージックパッド
- ・鈴
- ・タンバリン
- ・カスタネット
- ・トライアングル
- ・ピアノ、キーボード
- ・太鼓
- ・スピーカー
- ・iPad
- ・クレヨン
- ・紙
- ・cdプレーヤー
- ・色画用紙
- ・スカーフ
- ・折り紙

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

「五感とは何か」大きなテーマから考えることを始め、日常の音や楽器を使っていろいろな音に興味を持ったり、擬音で音を表現したり、音を絵で描いて表現したりと、音への興味を持てるように音探しを展開していった。絵本等、視覚的にとらえる方が意見が出やすかったため、絵本を用いて「この時の主人公の気持ちはどんな音だろう」「嬉しい時の音はどんな音だろう」など一人ひとりの考えを広げながら、問いを重ねていった。

探究活動の様子：

ピアノの音に合わせてクレヨンで絵を描いたり、虹色を描いてみたりして音や色に興味を示す姿がみられた。虹色に興味を持ち使う色や順番などが一人ひとり異なったが、「みんな違うね」「この虹色もいいね」など自分のとは異なる虹色に気づきながらも相手の個性も認め合う姿もみられるようになった。生活発表会が近づいてくると、歌の歌詞に合わせて自分たちで振付をして表現したり、役になりきって歩き方や動きを考えて表現する姿も

みられピアノの音に合わせてながら動き楽しんでた。楽器にも興味を持ち、ピアノの音に合わせてタンバリンや、鈴、大太鼓、シンバルなどを使って音を鳴らして楽しむ姿がみられた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

音って何だろうという問いは難しかったようで意見が出ることはなかったが、絵本を用いて雨が降っているときの音や嬉しいときの音などを問うとイメージしやすかったようで、色々な音を言葉で表現する姿がみられ保育者と一緒に音探しを楽しむことができ良かった。生活発表会も近づいてくると役になりきってピアノに合わせて声のトーンや動きをつけるようになり、4, 5歳の演目にも興味を持って歌い方を真似したり、表現力を広げる意欲的な姿がみられた。子どもの興味と共にいろいろな表現を楽しむことで「太鼓やりたい」「カスタネットやりたい」など子どもたちからの要望もよく出てきて五感を楽しんでいることを実感した。

【4歳児実施分】

問いを考える：

五感とは何か知るところから、音は目に見えたらどんな形なのか考えながら音に触れていった。音の形を描き表すことから音探しに興味を持ったため、保育室内にはどんな音があるのかな？と探した。探した音や絵本に合わせた音楽を聞いてどんな気持ちになったか、またその気持ちを絵で描いたらどうなるか、スカーフを動かしたらどうなるか、楽器で演奏したらどうなるか、など音からどんどん問いを広げていった。

探究活動の様子：

五感とは何か、音の形はどんな形か？考えた時は「知らない」「見えないよ」と答え、しっくりきていない様子が見られた。絵本「がちゃがちゃどんどん」を見た影響から、「がちゃん」や「カン」などの音に注目が行き、保育室内での2～3人ずつで音探しが始まった。「この音は耳が痛くなる！嫌な気持ち」と子どもたち同士で会話していた。そこから月1回の音楽講師との活動でアドバイスをもらい、BGM付の絵本の読み聞かせをして音と気持ちを考えてみたり、そのBGMに合わせてスカーフを揺らして表現したり、楽器を鳴らして表現したりと探求活動を深めていった。音を聞いてどんな気持ちになるのか、こんな気持ちはどんな音で表現できるのかなど、気持ちと関連した探求に意欲的で、すくわ

くの活動を通して、「外が暗くなってきたから声小さく、静かにしなくちゃね」「楽しそうな歌だからニコニコで歌う」などと、普段の生活でも変化が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

子どもたちにとって音や音楽は日常にあるもので、「音って目に見えたらどんな形？」と問われた時の反応はハテナが多かった。目に見えないからこそ難しさを感じている様子だったが、探求を進めていくうちに子どもたちなりに解釈し、音探しを初めてみたり、音を聞いて気持ちを考えてみたりと活動が深まっていったことに驚いた。発表会の劇や歌に取り組んでいる時期でもあったため、役になりきる時に声色を変えたり、歌の時に表情を変えたりと、すくわくの活動から表現力が磨かれていたようにも感じた。大人が難しく感じることで、子どもたちが興味を広げることで気づけることがあったり、おもしろい反応を見せていて、答えばかりを提示する必要はないのだと気づかされた。

【5歳児実施分】

問いを考える：

五感とは何か知るところから初めていき、音は目に見えないと話す子どもたちの印象を受けて、音を聞いてイメージを色や線で描いたり、スカーフを用いて音の波形を表すなどしていった。また、絵本の物語を用いて音と感情の結びつきを考えたり、擬音に言葉を当てはめたりしながら問いを重ねていった。また、子どもからあがった、楽器の音は鳴るのだろうか、音階が出るのだろうかといった疑問を広い、広げていった。

探究活動の様子：

五感についてそれぞれ説明した上で、それぞれどんな役割があるだろう？と問いかけると、嗅覚は鼻で感じるもので臭いが分かる、触覚は手で感じるもので洗うと冷たいと感じる、あったかい、寒い、気持ちいいが分かる場所と答えていた。音は目に見えるか問いかけると、分からないとの声が多く、絵に描いて行く中では正解や不正解にこだわる姿があった。しかし、好きにイメージしたものを描いてごらんと声を掛けると、波を描いたり、グルグル渦を描いたり、音階のように階段を描いたりしていた。また、音の大小や強弱を色の濃淡で表す工夫がみられた。絵本「クレヨンのくろくん」をBGMと共に読み聞かせをしながら、音と感情の結びつきに注目していき、クレヨンの気持ちになって絵を描いてみると、水色で雨を描いて悲しい気持ちを表したり、ピンクで花を描いて、春の嬉しい気持ちを表していた。次に絵本「がちゃがちゃどんどん」を用いて、擬音に楽器（カスタ

ネット・マラカス・フルーツシェーカー・スチールタンドラム・ハンドベル・タンバリンなど)で音を付けたり、ピアノをはじめとした楽器の音に合わせて情景を考えてオリジナルの物語を作ったりと展開していき、「クレヨンのかくくん」をベースに子どもたちで物語を考えて創作劇を生活発表会にも取り入れていった。探究活動や生活発表会へ向けて合奏に取り組んでいく中で楽器に多く触れていく中で楽器の音が鳴る仕組みに興味をもち、音楽講師に構造や仕組みを訪ねる姿がみられた。講師から聞いて得た知識をもとに、廃材を用いて楽器づくりも行い、音を鳴らす為に素材選びにこだわったり、複数組み合わせせて形を近づけるなど一人ひとりの創意工夫がみられた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

普段の保育の中で、印象画を描くなど自由に表現することに難しさを感じている子の姿があり、正解か不正解かを求める子の姿が多かった。探究活動を行っていく中で少しずつそういう思いが解消されていき、一人ひとり自分の発想を浮かべて表現する姿が増えていった。様々な音や楽器に触れていった中で、楽器の音が鳴る仕組みに興味を持って、保育者や音楽講師に疑問を投げかける際に、自分の考えも同時に伝える姿や音が鳴る仕組みが分かると、なぜ音階が出せるのだろうと疑問がどんどん広がっていく様子に子どもの探究心が育っていていることを実感した。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(必ず、公開可能なものを使用してください。)



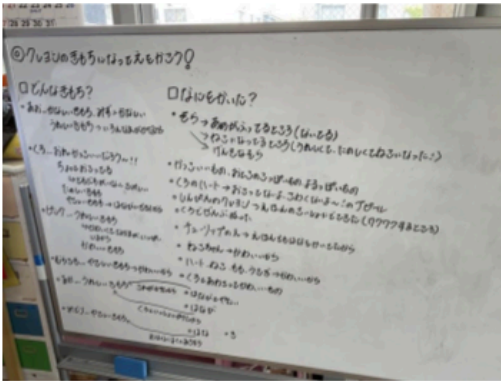
4歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	足立区足立2-26-14
園名	足立区立五反野保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

どうしたらボールを遠くになげられるかな

<テーマの設定理由>

広い園庭があり、日々園庭遊びでボール遊びを楽しんでいる。また、運動遊具が幅広く充実しており、玉入れ、的当てなどの遊びをしているため、楽しみながら探求が行えると感じたため。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に一回体操の講師を招致し、ボールに触れる機会を増やした。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育者と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

6月 ボールとは何か探求し、色々なボールに触れる。

7月～10月 どのボールが遠くに飛ぶか探求し、色々な投げ方でボールを投げて的当てなどで飛距離をのばしていく。

11月～1月 キャッチボールを通して、相手を取りやすいボールや投げ方を探求する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ボール(カラーボール・ゴムボール・ソフトボール・ドッジボール)
- ・カゴ
- ・体重計
- ・天秤
- ・巧技台
- ・パネルゲーム
- ・的のイラスト
- ・クレヨン
- ・空気入れ
- ・シール

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

ボールって何だろう？と大きなテーマをボールに親しみや興味をもってもらえるよう問いかけ、みんなで考えた。どっちが重いかな？遠くまで飛ぶのはどんなボールかな？と問い、投げたり触ったりしながら違いについて探求して楽しむ。また、色々な投げ方でボールを投げてみることで飛距離が伸びることが分かり、「カラーボールが遠くまで飛んだ」などの気づきが増えた。両手投げと片手投げの違いはあるかな？足は開いた方が投げやすい？など子どもたちの気づき、興味に合わせて問いを広げていった。

探究活動の様子：

ボールって何だろう？という大きなテーマから、色々なボールを触ったり投げたりすることでボールに親しみをもつようになってきた。「このボールかたい」「このボールびゅんって飛んだ」など気づいたことを言葉にする姿も徐々にみられるようになってきた。片手で持てるカラーボールや、掴みやすいソフトボールを好む子が増え、パネルを使った的当てやカードをロープでつるして目線よりも高い位置での的当てを通して狙って投げることを楽しんでいった。ボールに親しみを持ってきたところで遊びの中でもボール遊びが増えてきた。たいそう講師と一緒にキャッチボールをやってみると、片手で投げている子が相手を取りやすいように両手で優しく投げる姿がみられた。慣れてくると飛距離をのばすために片手投げで腕を後ろから思いっきり振って投げる姿も見られるようになり、子どもたち同士でキャッチボールを楽しんでいた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

最初は園庭で4, 5歳がボール遊びをしていてもあまり興味を示してなかったが、体育講師や保育者と一緒にボールに触れる機会が増えていくと、4, 5歳のボール遊びに興味を持

ち、サッカーやドッジボールに入ろうとする姿が見られたり、ボールで遊ぶことが増えてきた。「ボールって何だろう」「ボールの違いは何だろう」など最初のうちは理解が追いつかなかったりイメージすることが難しい様子も見られたが、同じ問いでも伝え方を変えたり、視覚的にイメージしやすい物を用意して話すことで、子どもたちの意見も広がって来たように感じた。すくわくの回数を重ねていくうちにボールの投げ方やスピードの違いにも気づいてきて子ども同士で真似し合ったり、興味を示す姿が多く見られるようになりキャッチボールをする姿もみられた。子どもたちが考えやすい問いを考えることが最初は難しかったが、問いを子どもたちと一緒に考えたり、意見を拾ったりを続けていくことで子どもたちも保育者も会話を広げていくことができて良かった。

【4歳児実施分】

問いを考える：

ボールとは何か？という大きな問いから、様々な種類のボールに触れて、どんな感触か、重さはどうか、硬さはどうかなど関心を高めていった。実際に、種類別でボールを投げ始めると、どのボールが投げやすいか、1番遠くにとぶボールはどれかなど問いが変化していった。そこから投げ方へフォーカスしていったことで、ボールの持ち方はどうすればいいか、足はどのように構えればいいのかなど子どもたちなりに「どうしたら遠くまでボールを投げられるか」と問いを広げていった。

探究活動の様子：

ボールとは何か？投げる前にボールに注目し、感触や大きさ、重さなどを比べるところから始めた。ボールをよく観察し、特徴を知ることによって投げた時はどのボールがとぶか予想することを楽しんでいった。予想しているときは「カラーボールは小さくて硬いからとぶ」「ドッジボールはドッジボールゲームの時に遠くまでとんだから」と理由もでてきて、2～4人ずつの少人数で実際に投げてみると、「両手の方が投げやすい」と投げ方への気づきも見られた。そこから体操講師との活動の時には投げ方に注目し、片手なのか両手なのか、足の形はどうすればいいかなどアドバイスをもらうことで、1人1人が編み出した投げ方を実践するようになっていった。最終的には、遊びの中で友だちとペアになりキャッチボールをしたり、ドッジボールゲームでは「腕を後ろにすると勢いがついて遠くまでとぶよ」と意見交換しながら楽しむ様子が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

園庭がある園のため、普段からサッカーやドッチボールなどのボール遊びを楽しんでいる分、意欲的に参加する様子が見られた。また、何気なく使っているボールを観察し「ボールとは何か」考えたことで、ボールの種類や特性に気づき驚く様子も見られた。そこから投げ方に着目し始めたら、友だちの投げ方を観察したり、片手投げだけでなく下投げでやってみたり、子どもたちなりに考え、試す姿が見られた。初めは戸惑っていたため、どうすれば良いか、どのような方法があるか、保育者からの声掛けを多くしてしまっていたが、探究活動を重ねる内に子ども達から活動したり、意見を出すようになり、自主的に行動するということを、私自身が気づけた。

【5歳児実施分】

問いを考える：

様々なボールに触れながら、ボールとは何か問いかけていく。投げるもの、キャッチするもの、蹴るものを使用用途を話す子、やわらかい、硬いと感触について話す子、バスケ、サッカー、ドッチボールに使うものを使用用途を話す子といた。日常的に遊びの中で使っているドッチボール、カラーボール、ゴムボールの3つに絞り、初めはそれぞれの特徴や違いを比べながら何が一番遠くへ飛ぶか予想していった。次に実際に投げていると、どのボールがよく飛ぶのか、どのようにして投げるとよく飛ぶのかと探求していき、「どうしたら遠くまでボールを投げられるか」と問いを広げていった。

探究活動の様子：

予想→実践→振り返りを繰り返しながら進めていき、グループごとに毎回の探求活動の結果を紙に記録に残していった。また、体操講師と一緒に取り組む場面ではその用紙を活用して、考えたことや探求活動の様子、結果を共有していった。初めにボールの重さに注目し、重さを測ってみようとアイデアが挙がる。体重計を用いて数字で重さを比べたり、天秤を使って目視で重さを比べたりしていった。その中で一番よく飛ぶボールはドッチボールとカラーボールではないかと意見が分かれ、どちらの意見でも空気に注目していた。ドッチボールは空気が多く入っているから飛ぶのでは、カラーボールは空気が軽いのでよく飛ぶのではと考えを話していた。実際に投げていくと、投げ方も関係するのではないかと気づく。両手投げや片手投げで投げ比べていく中で、ボールを持った手と同じ側の足を後ろに引き、反対側の手と足を前（投げたい方向）に出すと遠くへ飛ぶことが分かった。着地点ごとに点数を決めて、得点を競う遊びを楽しんでおり、その中で自然と探求活動で身につけた投げ方を意識している姿がみられた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

以前より遊びの中でドッチボールを中心にボール遊びをよく楽しんでいたが、遠くへ飛ばせない、相手チームにボールを当てることができないと悩む子の姿、上手くできないことで嫌厭する子の姿もあった。しかし、探求活動を通して投げ方を知り、身につけたことで多くの子が楽しむ姿がみられるようになった。探求活動を行う中で、保育者の予想に反して、子どもから様々な予想やアイデアがでてきて、それらを元に探求活動を進めていくことができた。日常生活の中でも自分たちで考えたり、試行錯誤したりする姿が増えていっている。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



4歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

